

# 令和7年度 地域づくり加速化事業の支援を受けて

令和8年3月4日（水）

土庄町役場 健康福祉課 介護保険係

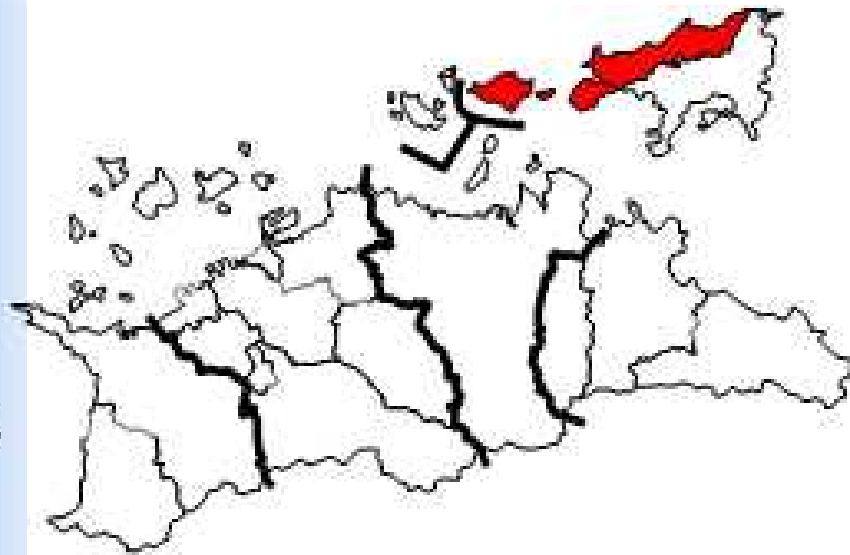
地域包括支援センター



# 土庄町の概要

土庄町は、瀬戸内海で2番目に大きい島で、瀬戸内海国立公園の東部に浮かぶ小豆島の西北部と豊島からなる。

1996年にギネスに認定された世界一狭い海峡「土渕海峡」、潮の満ち干きによって現れたり消えたりする「エンジェルロード」などの観光スポットがあり、海、山などたくさんの自然が多い。気候は四季を通じて温和な瀬戸内式気候である。



- 総人口 12,233人
- 高齢者人口 5,486人  
(内前期2,285人 後期3,201人)
- 高齢化率 44.8%
- 後期高齢化率 26.2%
- 調整済み認定率 20.7%
- 地域包括支援センター 直営1か所

※人口、高齢化率 (R7.6.1住基人口)  
調整済み認定率 (R7.4.1 見える化システム)

# 地域づくり加速化事業に取り組むようになった経緯①

- 2040年まで85歳以上の高齢者が増加
- 担い手の減少
- 高齢者世帯の増加

介護保険サービス量の不足の恐れ

総合事業費の増大  
(上限越え)

介護保険料の増加

介護保険サービスの維持  
自立支援に向けた支援の推進  
必要な人が必要なサービスを使える体制づくり  
循環型：必要な時にサービスが利用でき、元気になったら地域で過ごす

今後に向けて  
早急に取り組んでいきたい

地域づくりの推進  
地域でできる事は地域の方で行う仕組みづくり  
地域の担い手の域資源の活用  
介護予防自立支援に意識の啓発

地域づくり加速化事業の活用

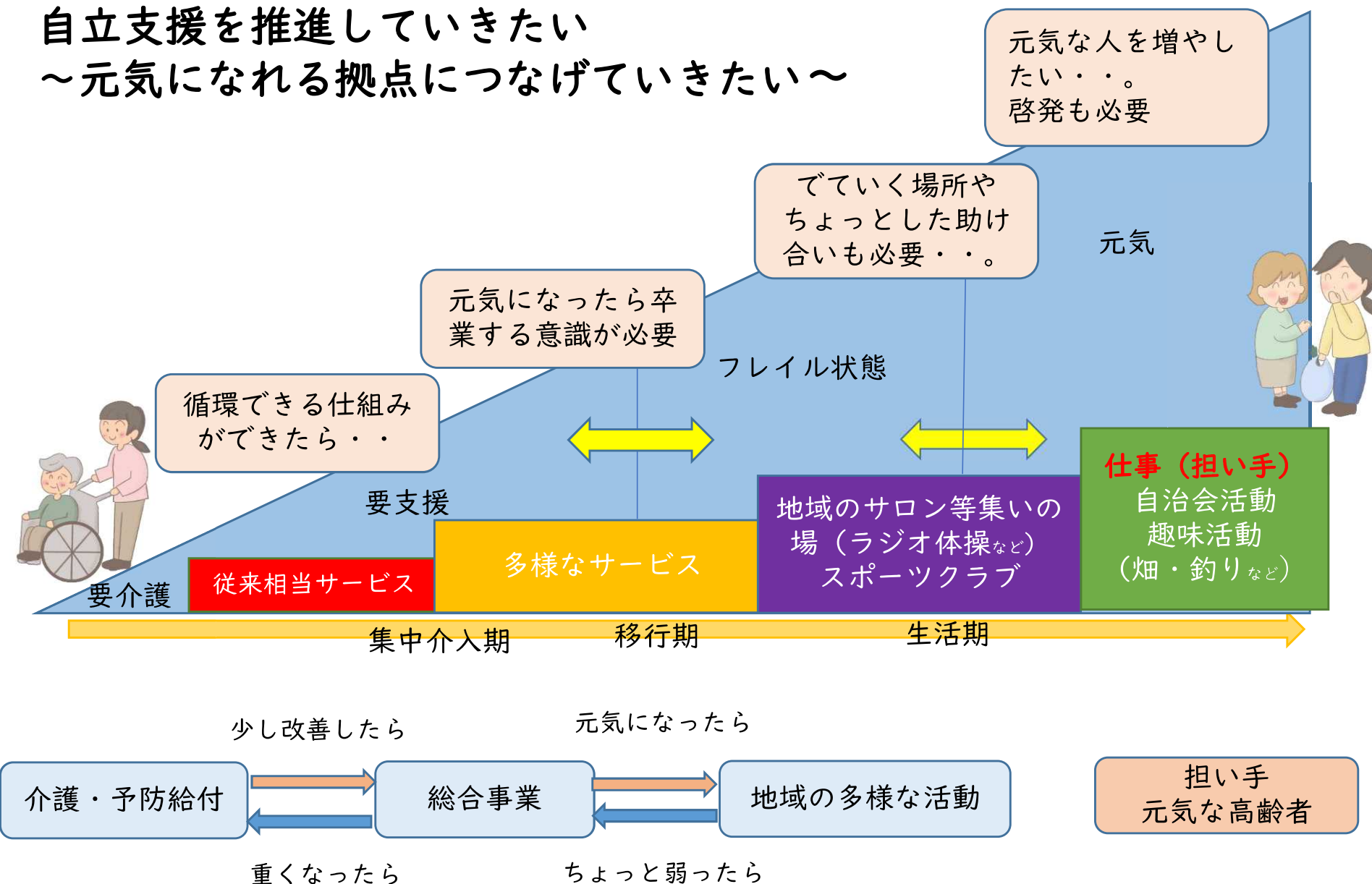
どうにかしなければ



でもどこから  
取り組めば・・・

# 地域づくり加速化事業に取り組むようになった経緯②

自立支援を推進していきたい  
 ～元気になれる拠点につなげていきたい～



# 支援の概要

定期のミーティング  
以外にも  
1.75mtg,2.75mtg  
の機会をとっていた  
だきました。

0.5MTG  
R7.7.23  
(水)

1回目  
支援  
R7.8.4  
(月)

1.5MTG  
R7.9.19  
(金)

1.75MTG  
R7.10.17  
(金)

事業所向  
け研修会  
R7.9.29  
(月)

2回目  
支援  
R7.11.17  
(月)

2.5MTG  
R7.12.19  
(金)

2.75MTG  
R8.1.29  
(木)

3回目  
支援  
R8.2.20  
(金)

# I回目支援（R7.8.4）

～地域づくり意見交換会～

午前 午後に向けた作戦会議

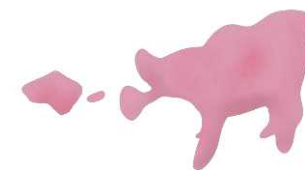


午後 地域づくり加速化事業の概要について

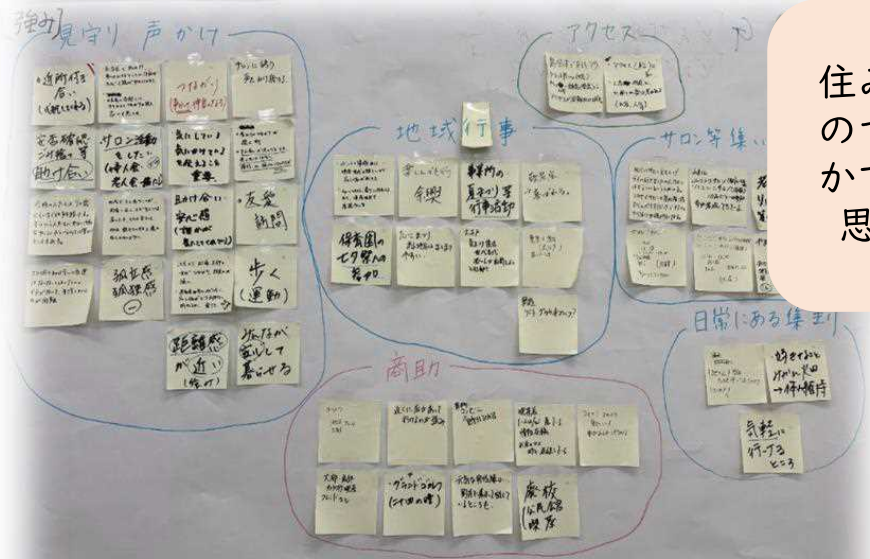
土庄町の現状と課題

意見交換会「土庄町をどんな町にしたいか・どんな暮らしがしたいか」

参加者 地域住民（介護予防サポーター等）町内の介護保険事業所職員・庁内関係課職員・社会福祉協議会職員



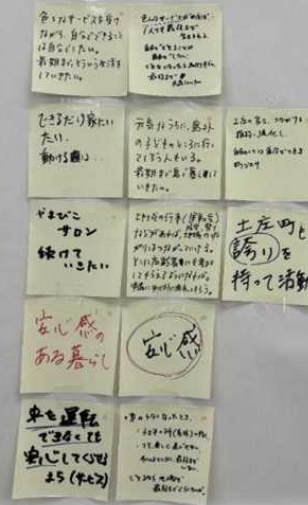
# 意見交換会ででた意見



住み慣れた地域のつながりのなかで生活したい  
 思いがある。

地域の中で安心して暮らしたい  
 思いがある。

どんな暮らしが  
 したいか？



地域で自分達でできる事は  
 したい思いがある。

●地域での社会資源の話  
 をきいてみよう！



●事業所の方と町が同じ意識を持つことが必要では？  
 →今まで、話し合う機会が  
 なかった！

## ● 1回目支援での気づき

- ・ 住民の思いが分かり、強みを再認識できた
- ・ 地域には様々な地域資源があるが、可視化ができていない
- ・ 町が目指す姿を住民・関係者らと共有できていない
- ・ 事業所、関係機関との自立支援に対する認識の相違がある→対話の機会がなかった。

## ● 2回目支援までに取り組む事

- ・ 1回目支援で出た意見をカテゴリー化し、課題や想いを整理する
- ・ 小さなサロンに出向いて意見を聞いてみる
- ・ 介護保険事業所・関係機関に対する意見交換会の実施

# 地域資源についてサロンでの話しあい (R7.9.21)

地域での社会資源の話を聞いてみよう！



# 事業所との意見交換（R7.9.29）

目線合わせ

- 介護予防日常生活支援総合事業の基本理念と最新動向
- 介護予防日常生活支援総合事業における土庄町の現状と課題、今
- 後の展望について
- 意見交換会

参加者 町内の介護保険事業所職員（通所型サービス事業所・訪問型サービス事業所・居宅介護支援事業所・地域密着型通所介護事業所）  
四国厚生支局 香川県 地域包括支援センター

専門職でなくてもできる家事サービスの提供は、他の担い手に…  
身体介護等専門職でなければできない事は専門職で…

介護度の重い人へサービスがまわせない事へのジレンマがある

自立支援というが、やる気を出して取り組んでもらう事が難しい

サービスを卒業するという意識、自立支援を目指すという意識を持ってもらう事への大変さ…

今後も一緒に話し合い、考えていける機会をもちたい

## 2回目支援（R7.11.17）

### ～第2回 地域づくり意見交換会～

午前 午後からの作戦会議

自立支援に向けての助言

午後 地域づくり加速化事業を通して

つながる力でもっと元気な町に

大部地区の社会資源マップづくりに参加して

グループワーク

～元気で過ごせる安心感のある土庄町を目指して～

「あなたの町（地域）ってどんな町（地域）？」

地域の社会資源マップを作って考えよう」

参加者 地域住民（介護予防サポーター等）町内の介護保険事業

所職員・庁内関係課職員・社会福祉協議会職員



## ●2回目支援での成果と気づき

---

- ・地域づくりの必要性を住民・事業所・関係者と共に共有することができた。
  - ・地域での様々資源により、地域での生活が成り立っていることに気づき、地域づくりの必要性を実感できた。
  - ・地域の中心となる方と町づくりについて話し合う機会が必要
  - ・小地域での地域に根差した資源の拾い上げの必要性を実感した
  - ・地域の課題について住民・事業所・関係者ともに洗い出し、共有できた
  - ・自立支援への取り組みについての方向性の理解を深める事ができた
  - ・事業所の更なる意見交換や新たな仕組みづくりに向けた協力についても検討していく必要がある
- 社会資源の洗い出しを小地域で継続して実施していく  
住民、事業所、関係者との規範的統合が重要

# 今後取り組む事


## ● 自立支援への取り組み

- ・ 状態像の決定（総合事業の従来型サービス利用者）  
事業所との検討会  
関係機関との対話  
住民への啓発

元気になる仕組みづくり

## ● 活躍の場づくり

- ・ 庁内関係機関との対話、情報収集
- ・ 居場所づくりの立ち上げ支援の継続、環境整備
- ・ 規範的統合  
庁内関係課、関係機関と課題共有、目指すべき方向と施策検討  
地域の婦人会、老人会自治会子ども会商工会など地域の中心となる方との意見交換  
小地域での働きかけ
- ・ 資源の可視化日常業務の中での取り組み



共通認識が持てるように、ロジックツリーの作成  
やるべきことの整理をしてロードマップの作成

## 3回目支援(R8.2.20)

---

～事業所・関係機関との意見交換会～

午前 午後についての作戦会議  
アクションプラン（ロジックツリー）の内容について  
確認し、今後取り組む事を整理

午後 1～2回目の取り組み内容と課題  
今後の方針（アクションプラン 案）  
事業所 関係機関と意見交換（土庄町のある  
ある事例から、元気になる方法について意見交換）

参加者 町内の介護保険事業所職員（通所型サービス事業所・訪問型サービス事業所・居宅介護支援事業所・地域密着型通所介護事業所・福祉用具事業所）社会福祉協議会



# アクションプラン（案）

## 最上位目標

住み慣れた地域で助け合いながら、元気で安心して暮らせる町

### 上位目標①

年を重ねて、介護が必要になっても自分がやりたいことができる

- 中位目標①:地域での介護予防の場が増える
- 中位目標②:健康づくり・介護予防に取り組むことができる
- 中位目標③:相談できる場所がある
- 中位目標④:元気を取り戻す仕組みができる

### 上位目標②

住み慣れた地域で最後まで自分らしく暮らせる

- 中位目標①:地域での活躍の場が増える
- 中位目標②:健康づくり・介護予防に取り組むことができる
- 中位目標③:就労・地域活動に取り組むことができる
- 中位目標④:生きがいづくりができる

## まとめ

---

住民の方や事業所、関係機関との対話で、思いを聞くことができ、改めて地域の力や、町の強みを実感することができた。

みなさんで出し合った意見からできた目標は

**住み慣れた地域で助け合いながら、元気で  
安心して暮らせる町**

そのためには、地域や事業所、関係機関、みんなで目指す姿を共有し、知恵をだしあって作り上げていくことが大切。

元氣になれる仕組みを一緒に考え作り上げていきたい。



小豊島港



重岩

ご清聴ありがとうございました。



エンジェルロード



迷路の町

# 令和7年度 地域づくり加速化事業での アドバイザー派遣を受けて



香川県  
健康政策課



# 香川県の概要

- 人口:917,058人 うち65歳以上人口:294,411人 ※R6.10.1
- 高齢化率:32.9% ※R6.10.1
- 要介護等認定率(第1号被保険者):20.3% ※R7.3月末
- 高齢化率、要介護等認定率 (第1号被保険者)  
ともに全国平均より高い。
- 県の面積は全国最小 ※R6.1.1



# 土庄町における取組み、支援

## 【加速化事業へエントリー】

- ・総合事業の事業費の増大による地域支援事業交付金の上限越え
  - ・今後見込まれる現役世代の減少と85歳以上高齢者の増加
- ⇒将来にわたって持続可能な介護保険サービス提供体制の構築が課題  
どの事項から、どのように取り組むべきか

### 県の関わり

- ・過去の加速化事業の実施状況を共有
- ・解決したい事項を整理するよう促す

## 【0.5次mtg】

- ・サービスを減らす視点ではなく、介護サービスに頼らない地域を作る
  - ・住民がどうしたいか、どんな町にしたいか拾うことが出発点
- ⇒ 住民や事業者を集めて話し合う場を設定すべき

### 県の関わり

- ・mtg後のフォロー  
(町の求める支援とADの支援方針の確認)

## 【1回目支援】 地域づくり意見交換会(住民や事業者等が参加)

- ・土庄町における総合事業の現状と課題を把握
- 土庄町をどのような町にしたいか・どんな暮らしがしたいか意見交換
- ・住民:「人とのつながりを持ちつつ、できるだけ地域で暮らしたい」
  - ・事業所: 自立支援の考え方について、町と相違がある

### 県の関わり

- ・全体進行、記録等

# 土庄町における取組み、支援

## 【1.5次mtg】

- ・住民との対話をさらに進める必要：社会資源マップづくり
  - ・自立支援について介護事業所等と認識共有する必要
- ⇒介護予防事業に関する研修会(事業所研修会・意見交換会)の開催

### 県の関わり

- ・mtg後のフォロー
- ・事業所向け説明資料作成に当たり意見

## 【2回目支援】地域づくり意見交換会(住民や事業者等が参加)

- ・社会資源マップづくりや事業所との意見交換について報告
- ・地域づくりの必要性を住民・関係者と共有

### 県の関わり

- ・記録等

## 【2.5次mtg】

- ・アセスメントのあり方についてアドバイザーから助言
- ・土庄町の今後のアクションプラン(ロジックツリー形式)の作成

### 県の関わり

- ・mtg後のフォロー

## 【3回目支援】総合事業のあり方検討会・意見交換会(事業者等が参加)

- ・土庄町地域づくりアクションプランの紹介
- ・土庄町「あるある事例」を通して、自立支援について意見交換

### 県の関わり

- ・記録等

# 伴走支援事業を受けて(県の主観)

---

## ● 住民や関係者との対話、繋がり的重要性

- ・まずは、“どのような地域にしていきたいか”を整理し、それを共有し、目線合わせすることの大切さ
- ・対話して初めて分かること
  - 地域の見えていなかった資源や住民の力
  - 住民や関係者の思い、考え方
- ・町だけで考えても進まない部分が、本事業による対話で進められた。また、今後も話し合える関係を構築できた。

## ● 今後の方針や取り組むべき事項の整理

- ・事業開始時は十分に整理できていなかった課題や方針について、アクションプランとして整理できた。  
⇒第10期介護保険事業計画策定へ見通しが立った。

**土庄町の皆様  
お疲れ様でした**



土庄町 エンジェルロード

# 地域づくり加速化事業 報告会

日時：令和8年3月4日（水）14:50～15:05

報告：中芸広域連合地域包括支援センター

方法：オンライン

# 報告内容

- 中芸広域連合の概要
- 地域づくり加速化事業に取り組んだ理由
- 取組み経過（現状、実施したこと、気づきや変化）
- 地域づくり加速化事業での成果
- 今後取り組みたい事

# 中芸広域連合の概要



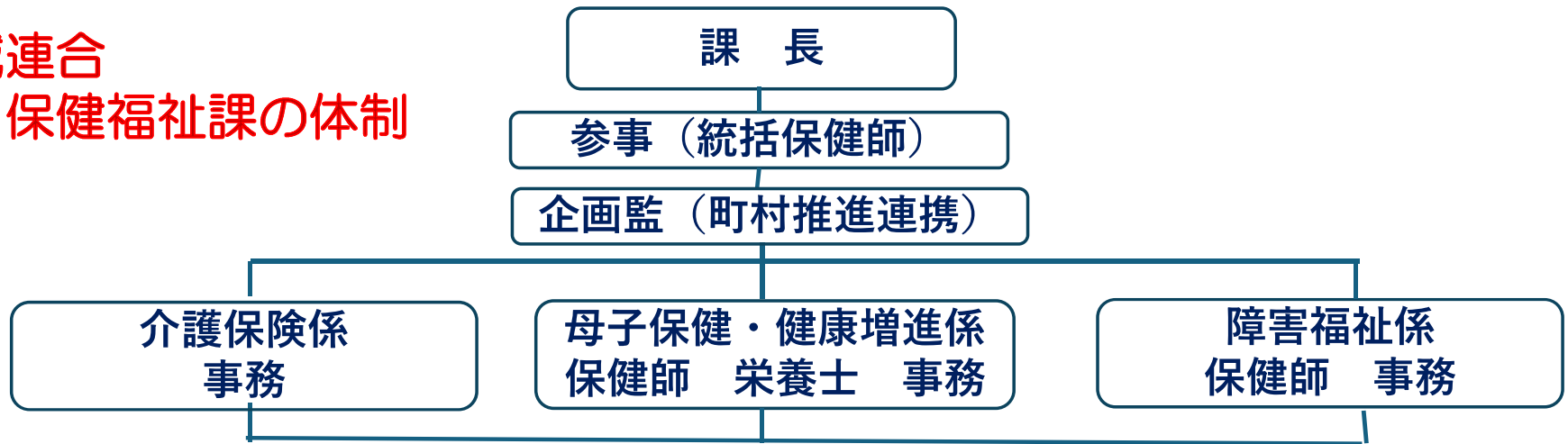
中芸広域連合  
(構成町村)

奈半利町  
田野町  
安田町  
北川村  
馬路村



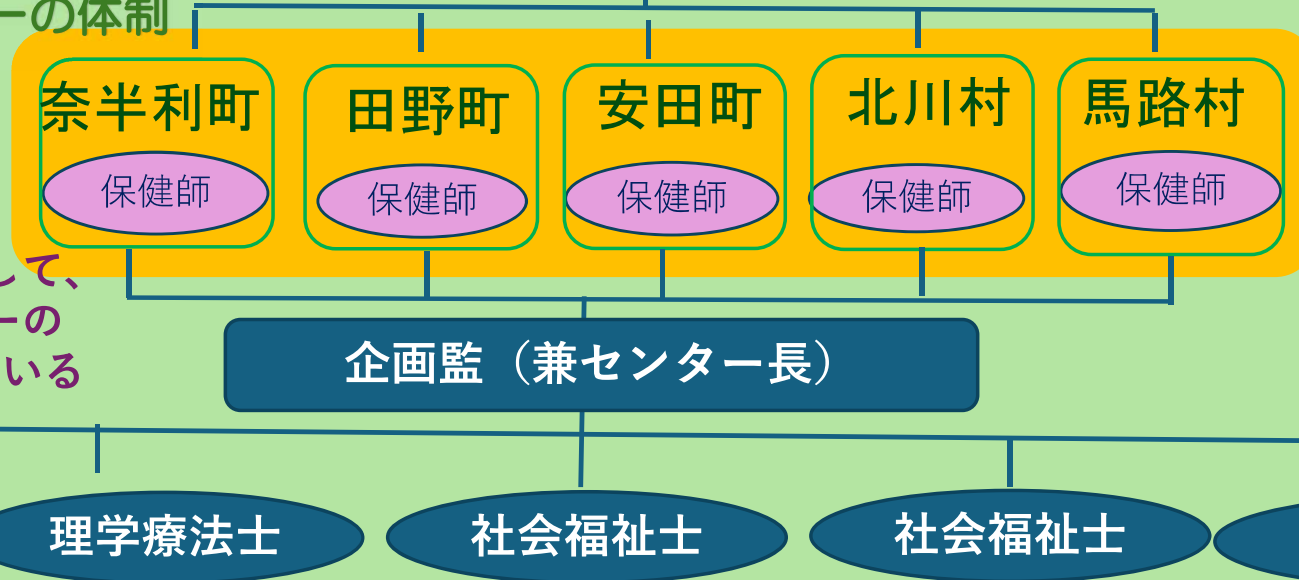
平成15年から、介護保険の保険者として一元的運営管理  
平成21年度から、母子・障害保健福祉、健康づくり事業も実施

# 中芸広域連合 介護・保健福祉課の体制



## 地域包括支援センターの体制

保健師は、町村担当として、  
地域包括支援センターの  
ブランチ機能を担っている



# 中芸広域連合の現状

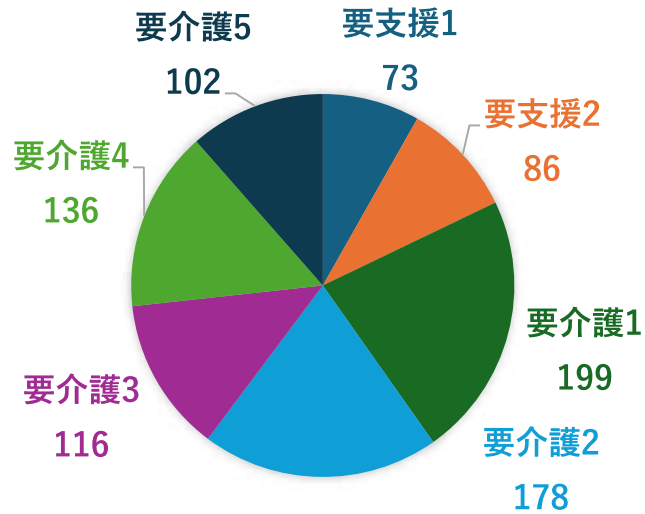
令和7年4月1日現在

	総人口	65歳以上 高齢者数	高齢化率	R6年度 出生者数
奈半利町	2,882	1,352	46.9	4
田野町	2,387	1,002	42.0	14
安田町	2,317	1,152	49.7	2
北川村	1,171	526	44.9	5
馬路村	758	319	42.1	6
合計	<b>9,515</b>	<b>4,351</b>	<b>45.7</b>	<b>31</b>

**H21年と比較**  
 総人口 ⇒ 約3,100人 減  
 高齢化率 ⇒ 9.5% 増  
 出生数 ⇒ 半 減



中芸広域連合要介護認定者数 (R7.3月末)



被保険者数 4,256人  
 認定率 20.9%

医療機関：病院1 有床病院1  
 診療所4

## 地域づくり加速化事業に取り組んだ理由

◆関係者の勧めで。

◆地域包括支援センターとして、町村と円滑な連携を図りながら業務を勧めていきたいという思いであったが、その反面、町村との対話や連携において、どのようにやればいいのか、どう動けばいいのか、戸惑いや漠然とした不安があり、自分たちだけでは解決策を見いだせなかった。

◆包括支援センター職員として、自分の動きがうまくできていないと感じており、客観的な意見をもらいたかった。

◆できていないこと、不安に感じていることを明確にし、地域包括支援センターの業務を軸とした業務の考え方や物事の整理の仕方等について、外部アドバイザーの意見を聞きながら学ぶ機会とした。

◆目指す姿と現実のギャップ、町村の課題を整理し、今後の取組みのアウトラインを作り、関係機関とともに活動することで、中芸地区の住民の姿がよりよくなることを目指した。

# 地域づくり加速化事業 取組み経過

## ◆オリエンテーション(7/2)

事業エントリー目的と中芸地域や地域包括支援センターの現状・課題（思いや不安も含めて）の報告

## ◆0.5次mtg(7/28)

地域包括支援センターが目指す姿について、対象者とあるべき姿を言語化  
中芸地区の強みであるあったかふれあいセンター事業を軸とした地域づくりの検討

## ◆1回目現地支援(9/4)

あったかふれあいセンターの活動報告、中芸地区の強み弱み、どんな地域になったらいいか

## ◆1.5次mtg(10/23)

あったかふれあいセンターに求める役割や目的を明確にするために、要支援者や虚弱高齢者の実態について明確化の必要性

## ◆2回目現地支援(12/5)

中芸版アセスメントシート等を活用し、要支援者や虚弱高齢者の実態を報告  
地域包括支援センターの日頃の活動から見える地域課題  
町村の課題（取り組みたいこと）について

## ◆2.5次mtg(1/9)

町村の課題について、地域包括支援センターとして解決に向けた活動展開をどのように取り組むか

## ◆3回目現地支援(2/5)

町村の課題（取り組みたいこと）について、現状や原因を深掘りし手立てを考える

# 地域包括支援センターの現状

- **地域の現状**： 少子高齢化 人材不足 介護事業所の縮小・撤退 等等

- **組織の現状**：

  - 中芸広域連合：

    - 構成町村からの派遣職員が多く2・3年サイクルで異動

  - 地域包括支援センター：

    - 住民の目指す姿を言語化できない

    - 行政職としての動きや地域活動の経験が少ない

    - 構成町村や関係機関との対話がうまくいかない、不安・自信がない

    - 制度理解をした組織的な施策展開が弱い

    - 構成町村と建設的な話し合いは難易度が高い

**何を、何処から、誰と、どうやって、やればいいのか???**

# 構成町村と実施したこと

方向性のすりあわせ

## • 構成町村との対話

5つの構成町村に出向き、住民の**目指す姿**と方向性を伝える  
地域づくり加速化事業のエントリー目的を説明

町村からは様々な反応や意見

- 町村が困っているところは他にある・・・
- 前に相談したことが解決していない・・・
- 十分やってくれている・・・
- 何をしたいかよくわからない・・・

**【目指す姿】**  
「中芸地区の要支援者・虚弱高齢者が安心して生活できるよう支えあいの「わ」が広がるまちづくり」

## • 構成町村と対話の繰り返し 0.5次mtg前 1回目現地支援前

# 地域包括支援センター内で実施したこと

- 地域包括支援センター内の対話の繰り返し

対象者の生活の実態が見えていない

対象者の生活課題や地域課題が言語化できない

⇒中芸版アセスメントシートを作成し要支援者を台帳に落とす

⇒町村からのこれまでの意見や声を振り返る

⇒個別支援におけるチームづくりを図に書いてみた

⇒思いを言語化し付箋に書き出す（視覚化）

もやもやを言語化・視覚化

## 日頃の活動の振り返り

これまでは、例年通りのやり方で「やっている感」があった

これまで、包括内でも関係者間でも共有の場がなかった（あってもうまく活用できていない）

「このままでいいのかな」と思いながらも、誰に相談していいかわからなかった（センター長不在時もあり・・・）

話し合いや加速化事業を通して、「このままではいけない」と感じた

反対も賛成もないのでOKと思っていた

# 日頃の活動の振り返り

研修を受けるとわかる？  
先輩は解決方法がわかっているの？  
経験すると見えてくるのか？  
わからないのは自分だけ？ 不安・・・

包括内で話し合い・共有が必要！  
報連相もまだまだ・・・

何をどこまで共有??  
どんな話し合いをすればいいの??

もやもや

もやもや

もやもや

もやもや

もやもや

町村との役割分担が見えない・わからない  
ex.訪問⇒このケースは役場？  
包括？

何が正解か判断基準がわからぬ  
役場とやり取りを意識したが・・・  
包括のマニュアルなども読んでみた  
が・・・ぼんやり

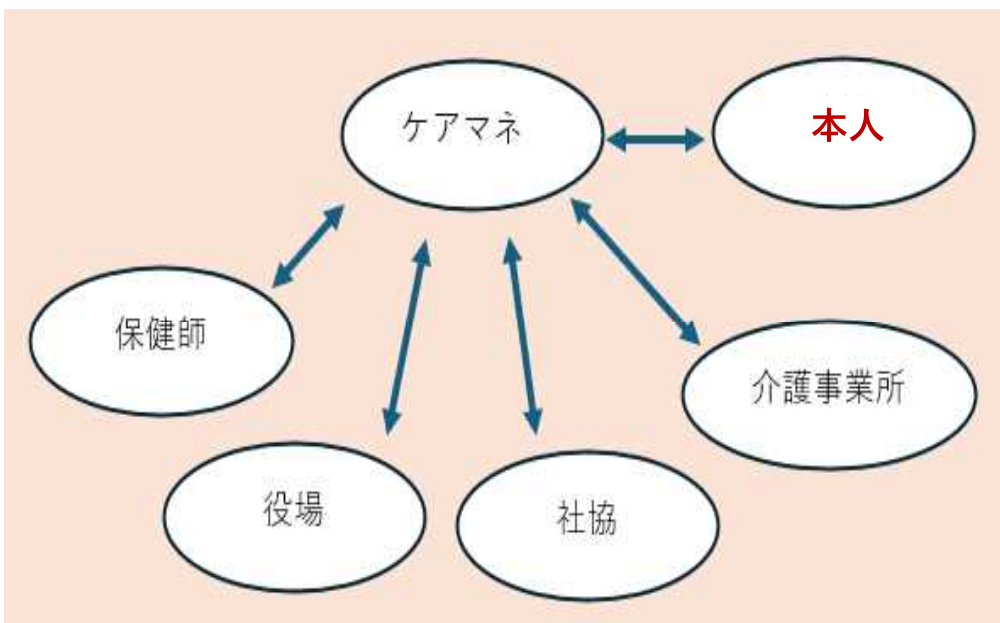
自信がない  
不安・・・

どこまでやっていいのか  
(支援すれば) いいのか  
わからない  
判断できない

Hセンター長が役割を明確に  
してくれると思ったが・・・そ  
うではなかった😭

「誰とどのように連携してチームで動くか  
日頃の自分の動き方を図に表してみた」

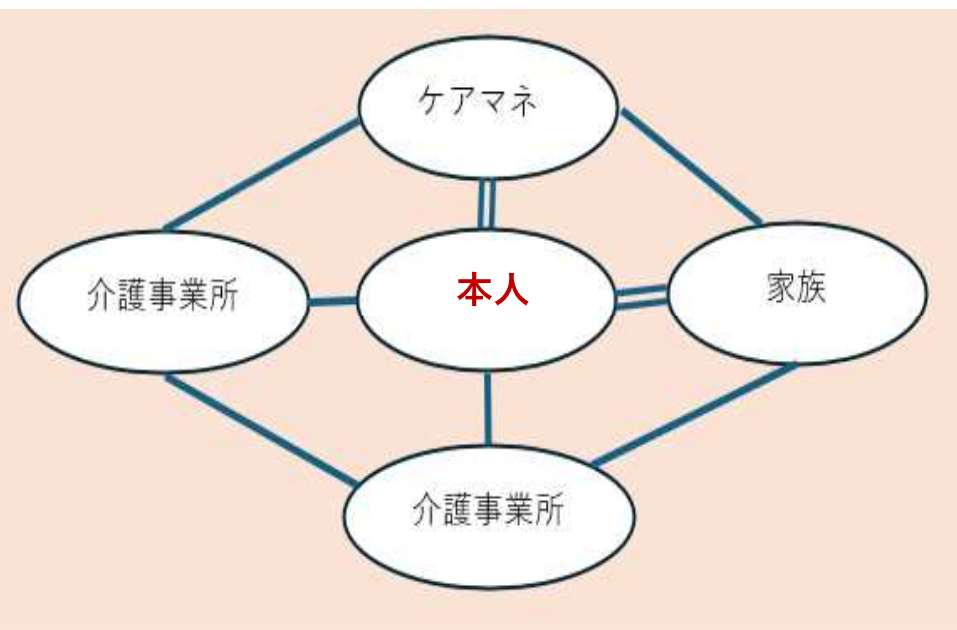
パターン1



本人中心の支援を意識しているが、、、  
図に示すと、ケアマネが中心の図に。  
タスク整理、効率を重視した思考プロセス  
になっていることが分かった。  
自分の中で早く解決したい、選択させ  
たい気持ちがあった。

# 「誰とどのように連携してチームで動くか 日頃の動き方を図に表してみた」

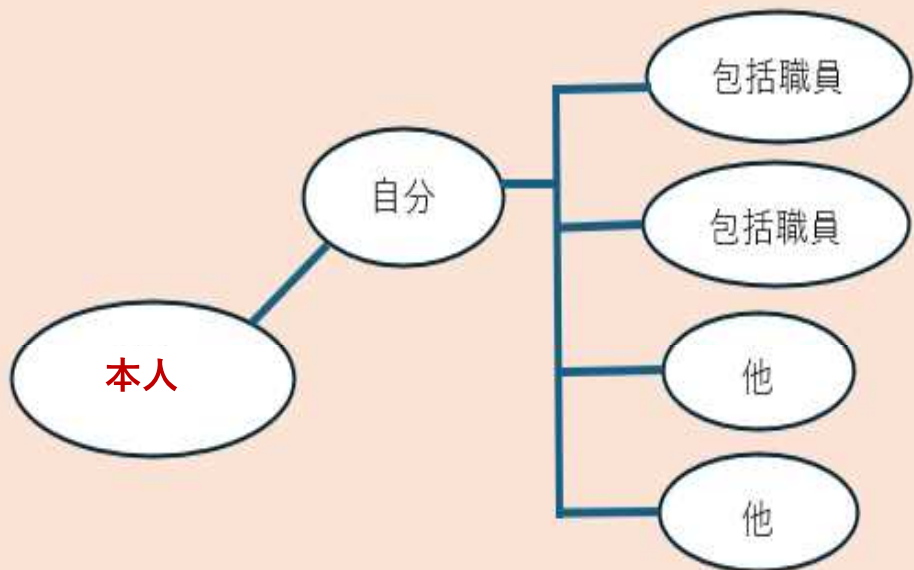
## パターン2



本人中心の支援は意識している。  
家族、ケアマネとの連携を強く意識している。  
連携する関係機関が限られている。  
支援の視野が狭くなっていることがわかった。

# 「誰とどのように連携してチームで動くか 日頃の動き方を図に表してみた」

## パターン3



本人と自分が関わる。  
わからないことは、包括職員や関係者に相談しながら動く。  
情報共有は関係者が少ない方がやりやすい、、、  
思考の背景に、自分が効率よくかかわりたいという意識があり、シンプルなかかわりになっていた。

# 「気づき」と「変化」 ✨ ✨

本人の困りごとの解決にはしり、  
全体がみえていない。

答えや効率を優先する（求める）と、見えないことがある。

相手（住民・関係者）と話をしないと（やり取りを大事にしないと）とわからないことがある。

いろいろな人の意見を聞くと視野  
が広がる。

どうしてそのようになったのか、**真の原因**を考えることが大事。常に**「なぜ？」**の意識が大事。

「もう一步踏み込んでみよう！」  
と考えるようになった。

「これでいいのかな？」  
「その人に合わせられているのかな？」と、立ち止まって考えることが増えた。

## 話し合いの繰り返し ～日頃の活動の振り返り～

「気づき」と「変化」 ✨ ✨

- 言葉のやり取りだけでは、見えない・わからない部分が見えてきた
- みんなの頭の中（考えていることが）が見えてきた
- 自分の癖（自分流）、お互いの癖がわかった
- 出し合い・話し合いが大切
- 包括支援センター職員同士の目線合わせが大切
- ケースの捉え方に変化

# mtgや現地支援で実施したこと

- 参加機関：行政（町村役場の事務職・保健師）、社会福祉協議会（SC・事務局長）（参加者 37名 36名 38名 支援チーム含）
- 地域包括支援センターの現状や取組み報告（弱みや思いも含めて）  
目指す姿や対象とする住民の要支援者の現状を中芸版アセスメントシートなどを活用し報告
- 構成町村毎のGW（5町村が一同に会して集まる機会があまりなかった）
- 構成町村毎に目指す姿や取り組みたい事、課題に感じていることを意見交換（町村の強みや弱み、資源などもあわせて出し合い）
- 地域の現状の深掘り作業 ⇒ 真の原因を考える（なぜ？どうして？）

～ 中芸版個別アセスメントシートから ～

1	ポータブルトイレ購入以外のかかわりはなくていか判断できる情報は？	1 3	町営住宅、難病転倒増、薬が合い手すり福祉用具。訪問リハ中止 娘毎週、ねこのて外出支援
2	人のいる場所行きたくない、柵につかまり散歩→行きたくないで終わる？	1 4	圧迫骨折入院、独居、隣町長男住、自分でできる主張、サービスや通いの場未利用
3	浴室の環境整備→シャワー椅子 集い週1回、アジサイの剪定が役割・自信	1 5	独居 肺炎入院後支援開始、家屋環境で入浴が困難となり支援開始
4	同居家族からの下肢筋力低下で申請、介護未利用、自ら知人に相談集いに参加	1 6	車の運転免許返納、セニアカーレンタル、週2集い、買い物が高い・・・
5	県外からの移住、身寄りなく生活全般支援、介護対応は一部→困難事例と言える？	1 7	狭心症OP後の93歳、要介護の夫と二人、隣町から娘が支援、トイレ、ふろが屋外
6	体調不調入院からの支援、独居、現在の暮らしの維持のために・・・	1 8	91歳 妻が死亡、物忘れ、免許返納など娘が週に数回支援、サービス未利用
7	配偶者の死亡によるさみしさ、気力低下、田舎に行きたい？通いの場への条件は	1 9	骨折後の生活支援で申請、非該当、集い週1回、認知症妻と長男の3人
8	独居 気管支喘息体調不良、薬の飲み忘れ 酸素使用 あったか訪問あり、78歳悪化防止の工夫	2 0	85歳 昨年長男死亡、体調不良による入院後の申請も未利用、あったか訪問
9	2週間入院筋力低下、手すり設置あったか利用 独居	2 1	90歳 入院後家族負担かけたくないと申請未利用 家族は透析中
1 0	病気悪化死亡	2 2	再入院中
1 1	入院中、病院が心配して申請高齢世帯、自転車乗る	2 3	がんによる療養→死亡
1 2	医療保護入院中	2 4	



めざす姿

中芸地区の要支援者・虚弱高齢者が安心して生活できるよう  
支えあいの「わ」が広がるまちづくり

2回目現地支援  
グループワーク

それぞれの役割や取り組むことを考えてみよう



解決すべき  
課題でも可



地域みんな	社協・関係機関	包括	行政（役場）	保険者（広域連合）
<p>住民みんなのできることは何か・・・ひとり一人ができることもありそう</p>	<p>社協のできることは・・・他に関係機関（企業）等</p>	<p>包括のできることは・・・包括でないとできないものは・・・</p>		<p>役場でできること、役場でないとできないもの、広域では・・・</p>
<p>協働でできることもあるかも・・・</p>				

# 町村との話し合いの進め方

3回目現地支援  
グループワーク

①現状、誰に（高齢者等やそれを支える人・地域等）どんな望ましくない状況があるのか【現状】

【本人】 ex. . . . . な姿がある

【家族】

【地域】

【包括】

【行政】

【    】

②誰がどんな状態だったら良いか【ありたい状態・目指す姿】

【本人】 ex. . . . . ができる

【家族】

【地域】

【包括】

【行政】

【    】

# 町村との話し合いの進め方

3回目現地支援  
グループワーク

③現状が生じているのはなぜか？根本的な原因は何か【原因】

【本人】 ex. . . . .

【家族】

【地域】

【包括】

【行政】

【    】

④原因を解消するため、誰にどんな働きかけを行うと解決できそうか【対策】

【本人】 ex. . . . . を行う

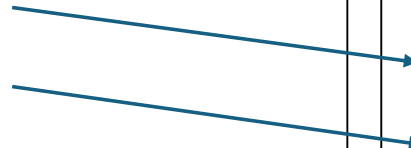
【家族】

【地域】

【包括】

【行政】

【    】



# 地域づくり加速化事業での成果

◎住民のあるべき姿や対象を明確にして、構成町村と取組の方向性について共有を図ることができた。

◎対象者の課題整理や個別支援の実施方法において、様々な課題があることに気づけた。（思考プロセスや連携方法、アセスメントの視点、現状に至る原因を考える事、自立支援の視点、介護保険申請時対応の現在の仕組みなど）。生活課題の早期発見、対応につなげる作業が急務であることがわかった。

◎高齢者の目指す姿を達成するための望ましいアセスメント方法、情報の共有・連携について、関係機関と協議することで目標達成のための手段を共有できた。

◎住民の目指す姿や地域課題を共有する作業を通して、構成町村と業務目標を達成のための目的設定や資料作成が重要であることを再認識できた。

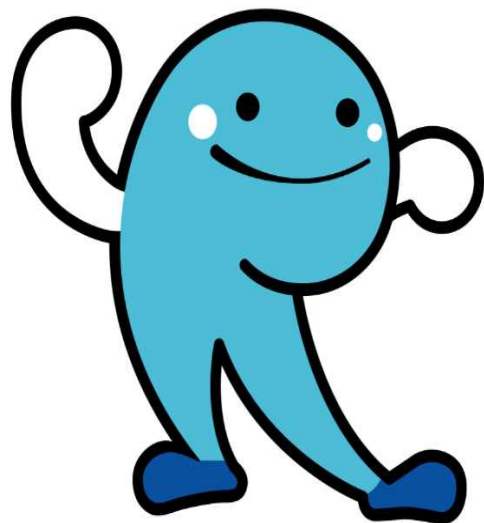
# 今後取り組みたい事

- 中芸版アセスメントシートによる要支援者の台帳を作成し、生活課題の実態把握と課題解決に向けた地域ケア会議を実践していく。



# 令和7年度地域づくり加速化事業

## 高知県



高知県公式キャラクター  
くろしおくん

令和8年3月4日（水）

高知県子ども・福祉政策部 長寿社会課

# 高知県の支援体制

- 人口：643,009人　うち、65歳以上人口：238,416人　※R8.1.1
- 世帯数：308,841世帯　※R8.1.1
- 高齢化率：37.1%
- 要支援・要介護認定率：19.7%　※R8.1月末
- 高齢単身（独居）世帯数、高齢夫婦世帯数ともに年々増加している  
（単身高齢者世帯の人口割合：全国1位）



**保険者数：30保険者**  
(29市町村1広域連合)

組織	役割
長寿社会課 (本庁)	地域支援事業・地域包括支援センター・介護予防・生活支援体制整備・認知症・フレイル予防など
在宅療養推進課 (本庁)	地域包括ケアシステム・医療・介護・福祉の連携など
福祉保健所 地域支援室×5 (出先機関)	市町村に近くきめ細かな支援 地域包括ケア全般

# 中芸広域連合について

## <構成町村>

	人口(人)	65歳以上(人)	高齢化率(%)
奈半利町	2,689	1,365	50.8%
田野町	2,197	964	43.9%
安田町	1,962	980	49.9%
北川村	1,062	468	44.1%
馬路村	646	276	42.7%
合計	8,556	4,053	

R8.2.1現在(高知県統計課)

## <社会資源>

	奈半利町	田野町	安田町	北川村	馬路村
あったか ふれあい センター	拠点1 サテライト19	拠点1 サテライト12	拠点1 サテライト16 (内4カ所休止)	拠点2 サテライト9	拠点1 サテライト6
地域の通いの場	70カ所				
介護保険 サービス事業所	12カ所	7カ所	4カ所	1カ所	1カ所
医療機関	5カ所	3カ所	2カ所	なし	2カ所

# 中芸広域連合について

## 支援の経緯

中芸広域連合から

- ・きっかけは関係者からのすすめ
- ・地域包括支援センターとして、町村との円滑な連携の取り方について不安があった。

## 県からみた中芸広域連合

- ・地域の担い手が不足するなか、見守りや集いの場の拠点となる「あったかふれあいセンター」を中心に地域住民の協力体制がある。
- ・高齢化が進み、ピークアウトしている地域が増えている。新しい担い手確保の取組が課題。広域連合も取り組みをしているが…
- ・地域の資源が少なく、さらにシルバー人材センターの解体など、地域の生活を支える活動が弱まっている。広域連合から、総合事業や生活支援体制整備事業の見直しの希望が声が聞かれ、県としても、支援の必要性を感じていた。広域として構成町村で資源を共有しながら地域をどう考えるかが課題



# エントリー～支援の流れ

- ・加速化事業に対する、広域連合の意向の確認
- ・現地支援当日の話し合いの方向性の確認・助言
- ・福祉保健所から、県東部のヘルパー不足対策に関する情報の提供

- ・ミーティング、現地支援後話し合った内容の整理
- ・現地支援当日の話し合いの方向性の確認・助言
- ・加速化事業に対する、広域連合の意向の確認
- ・福祉保健所より、中芸広域連合の現状に関する情報を提供(面積・人口密度・高齢化率等)

- ・現地支援当日の話し合いの方向性の確認・助言
- ・今後の支援について確認

0.5次mtg

1回目支援  
(10月2日)

- ・構成5町村の強み・弱みと、各町村で実施する「あったかふれあいセンター」での活動について共有
- ・広域連合として共通する課題、構成町村独自の課題について整理
- ・包括としてどのような事に取り組むかをまとめる

1.5次mtg

2回目支援  
(12月5日)

- ・包括支援センターが目指す地域の姿と包括の悩みを共有。
- ・アセスメントシートを活用し包括が支援するケースを共有。
- ・顔の見える関係づくりの重要性を再確認

2.5次mtg

3回目支援  
(2月5日)

- ・町村の取り組みたいことを整理
- ・3回の支援を通じて、構成町村と包括が話し合うことのできる土台づくりができた。
- ・情報共有の場の必要性について確認

# 加速化事業に参加して

ーこの経験をどう生かすかー

- 顔の見える関係づくりの重要性「一緒に考える」事を大切に。
- 県が持つデータの活用（収集・分析）
- 市町村が認識している課題だけでなく、地域づくり全体を意識した俯瞰的な視点を持つ。
- 来年度以降の市町村への伴走支援をさらに充実させていくために、福祉保健所と連携しながら市町村と対話し、寄り添う支援をしていきたい。

地域づくり加速化事業に関わっていただいた皆様  
ありがとうございました。



# 令和7年度 地域づくり加速化事業 四国厚生支局 報告

2026.3.4

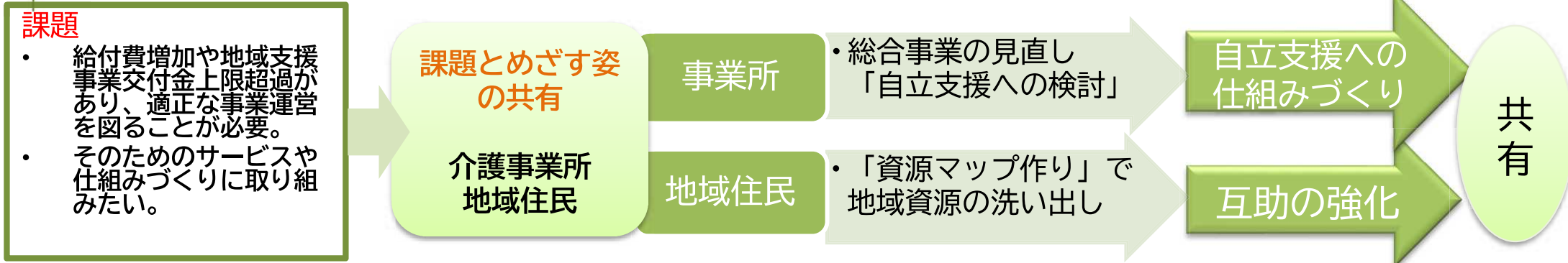
四国厚生支局地域包括ケア推進課

# 令和7年度 四国厚生支局 地域づくり加速化事業支援経過一覧

実施自治体	香川県土庄町	高知県中芸広域連合(奈半利町・田野町・安田町・北川村・馬路村)		
テーマ	介護予防ケアマネジメント・通所型サービス	生活支援体制整備事業・総合事業の見直し		
アドバイザー名	廣末 ゆか(高知学園短期大学専攻科地域看護学 特別任用教授) 星田 ゆかり(元人間環境大学松山看護学部看護学科地域看護学領域 准教授)	越智 和子(香川県琴平町社会福祉協議会 会長) 星田 ゆかり(元人間環境大学松山看護学部看護学科地域看護学領域 准教授)		
支援経過	0.5mtg	7月23日	7月28日	
	第1回	8月4日	9月4日	
	内容	AM	支援チームによる作戦会議 ・本日の目的の共有 ・話し合いの内容、方法	1. 開会・挨拶 自己紹介 2. 地域づくり加速化事業でめざすもの 事業の概要や中芸広域連合の現況(四国厚生支局) 3. わがまちの紹介(奈半利町→田野町→安田町→北川村→馬路村) 町の紹介、取組内容や課題、めざしている方向性の共有
		PM	1.挨拶 自己紹介 2.地域づくり加速化事業の概要について(四国厚生支局) 3.土庄町の現状・課題 4.グループワーク「土庄をどんな町にしたいか」 5.まとめ 振り返り	4. グループワーク「わがまちの強み・弱み・あるべき姿を考える」 広域連合及び町村ごとに分かれて意見交換 発表 講評 5. 包括、支援チームで振り返り
	1.5mtg	9月19日	10月23日	
	1.75mtg	10月17日		
	第2回	11月17日	12月5日	
	内容	AM	支援チームによる作戦会議 1. 地域づくり意見交換会②の打ち合わせ・午後から意見交換会で発表する「加速化事業の実施内容をまとめた資料」について共有し、GWの進め方の確認をする。 2. 自立支援に向けた事業について指導と助言 ①地域ケア会議を活用した介護事業所との意見交換会の今後の方向性と進め方について(土庄町案を説明) ②自立支援型地域ケア会議を活用した事業の進め方について自立支援に向けたケアマネジメントの強化:サービス導入時の基準設定・導入時の必要性・目標の明確化、卒業の基準・判定の場の設定など	1. 開会・挨拶 2. 地域包括支援センターの取り組み紹介 個別の状況や住民の声から見えてきた地域課題の共有
		PM	1.自己紹介 2.「地域づくり加速化事業の目的と経過報告」土庄町 3.小部はまぼうサロン「大部(小部)地区の社会資源マップづくり」に参加して はまぼうサロン 4.グループワーク ～元気で過ごせる安心感のある土庄町を目指して～「あなたの町(地域)ってどんな町(地域)? 地域の社会資源マップを作って考えよう」 5.まとめ 6.土庄町、支援チームによる振り返り	3. グループワーク めざす姿について紹介(地域包括支援センター) テーマ「めざす姿の実現に向けて、それぞれの役割を考えてみよう」 包括、町村毎にわかれて意見交換 発表 まとめ 包括、支援チームで振り返り
	2.5mtg	12月19日	1月9日	
	2.75mtg	1月29日		
	第3回	2月20日	2月5日	
	内容	AM	1. 午後の「自立支援を目指した総合事業のあり方検討会」の打合せ ・活用資料の説明(四国厚生支局、土庄町) ・グループワークの進め方や今後の事業の進め方等についての確認 2. アクションプランについての指導と助言 ・目標、取組内容、評価、進め方・優先順位等	1.開会・挨拶 2. 地域包括支援センターからの報告とグループワーク ・活動報告～気づきと変化～ ・グループワーク～町村ごとの課題についてやりたいことを考える～ 町村の課題(奈半利町)虚弱者支援の仕組みづくり (田野町)新たな層が集まれる集いの場の検討 (安田町)買い物について (北川村)介護相談(介護の入り口)からの支援の仕組みを考える (馬路村)60代・70代の若い世代を巻き込むかわりについて 包括の課題 中芸版アセスメントシートを活用し、介護相談からサービスありきではない支援の仕組みを考える
		PM	1.「介護予防・日常生活支援総合事業の基本的理念」について(四国厚生支局) 2. 土庄町地域づくりアクションプランと相談支援の現状について(土庄町) 3. 意見交換会 グループワーク ～土庄町あるある事例を通して考えてみよう～ 4. 発表、まとめ 5. コアメンバー会議・振り返り	3. 意見交換 4. 包括、支援チームで振り返り
今後の方向性	・既存の住民主体の活動や継続して養成している介護予防サポーター活動について、地域の課題を共有しながら通いの場づくりなどに取り組む。 ・町内介護事業所と地域の課題を共有しながら、総合事業の見直しを図り、自立支援に繋がる仕組みづくりを進めていく。 ・保険者として、町のめざす姿を住民をはじめ様々な機関等に示しながら、協働して取組みを進め、第10期介護保険事業計画にも反映させていく。	・これまで自治体毎で様式含めて違った相談機能を、中芸版アセスメントシートを作成し、相談窓口でもある5か町村の役場(プランチ)や社協とも情報共有しながら、サービスありきではない個別支援に取り組む。 ・関係機関との連携や、地域課題解決に向け、地域ケア会議を効果的に実施できるようにする。 ・中芸広域連合としての目指す姿を関係機関や住民と共有し、地域包括支援センターの業務について目標や目的を明確にして活動する。		

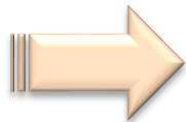
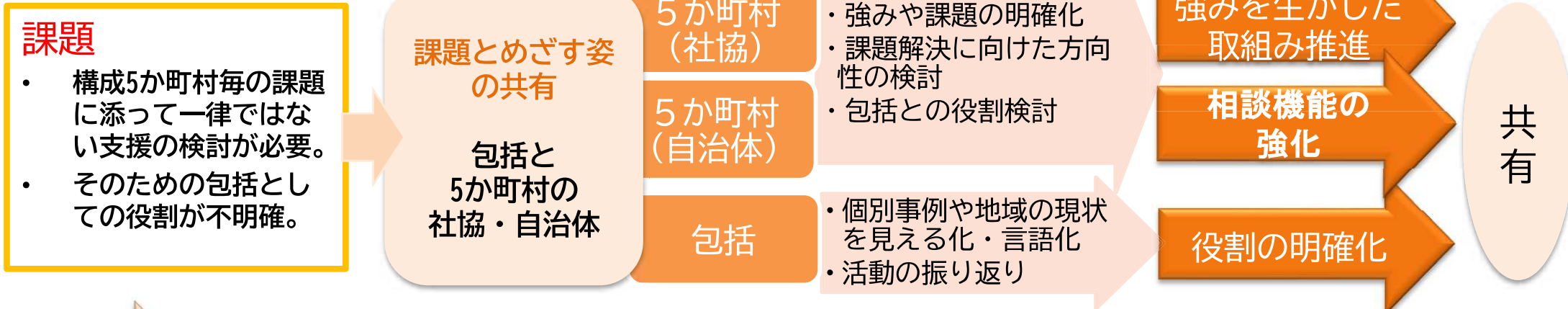
# 令和7年度 自治体の当初課題と支援の特徴

## 香川県土庄町



- 事業所の想いも共有しながら、自立支援に向けた支援の仕組みづくりを検討する。
- これまで取り組んできた地域活動を再確認し、より住民主体の活動を強化する。

## 高知県中芸広域連合（田野町・安田町・奈半利町・馬路村・北川村）



- 5か町村の社協や自治体はそれぞれ地域の実情に合わせて互助の仕組み等をより推進する。
- 地域包括支援センターは、地域全体をみて関係機関との連携を強化、マネジメントしていく。

# 【地域づくりを進めるために】 課題のまとめと取り組みの方向性

## 課題



- それぞれ小地域毎の特性があり、地域課題も違ってくる。
- 個別の支援では頑張っているが、そこから地域課題を導き、解決するに至れていない。
- 自治体としてのビジョン（めざす姿）を言語化していない。
- 地域の資源が十分生かせていない。
- 住民の持つ力に気づけていない。
- 事業所間等の連携が十分ではない。
- それぞれの機関がもつ役割が明確ではない。また、共有できていない等の可能性がある。
- やってあげる支援の意識から自立に繋がらない。
- 事業と事業がうまく連動していない。
- 事業をうまく進めることが目標になっており、めざす姿に向かう手段として捉えられていない。



目線合わせ  
(規範的統合)



ビジョン（めざす姿）の  
共有  
対話『場』の重要性

地域マネジメント



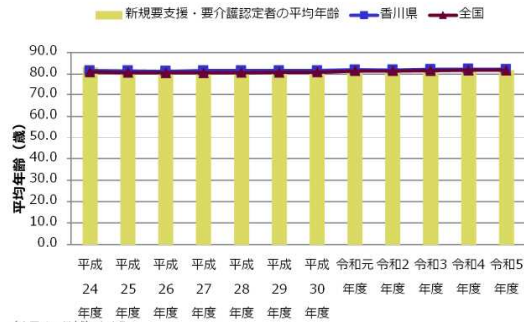
# 課題解決に向けて(データから地域の現状を共有)



## 土庄町の現状(見える化システムより)

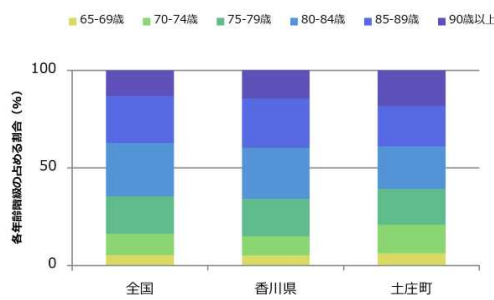
## R5介護予防・日常生活圏域ニーズ調査からみた地域の現状(抜粋)

新規要支援・要介護認定者の平均年齢(土庄町)



(注) 注目する地域: 土庄町  
(出典) 厚生労働省「介護保険総合データベース」(令和6年8月10日時点データにて集計)  
※本指標は自治体向けのため取り扱いに注意してください。

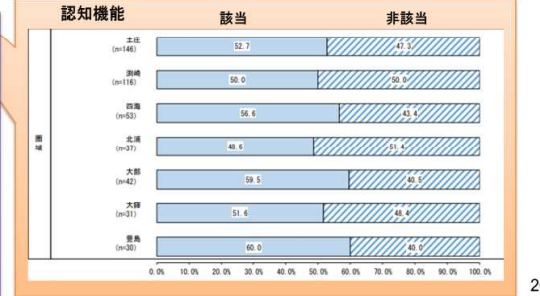
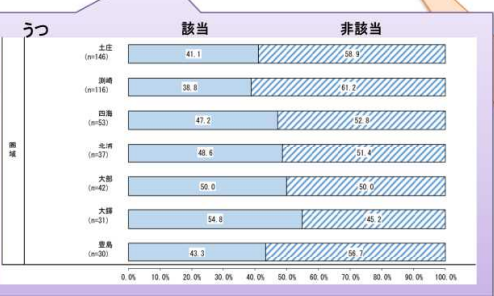
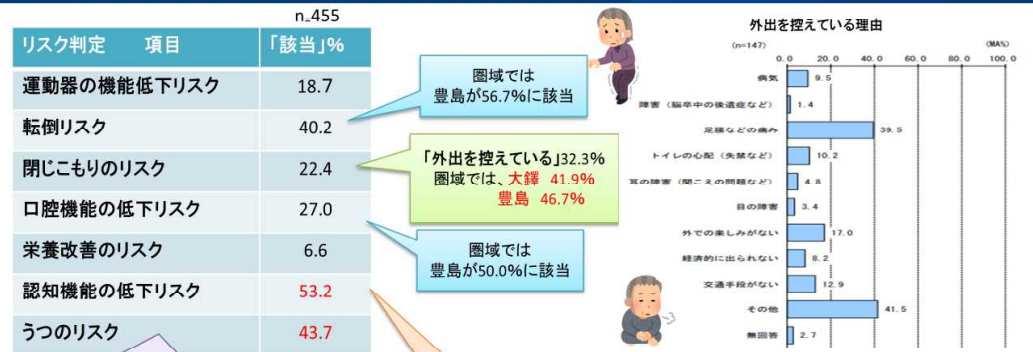
新規要支援・要介護認定者の年齢階級別分布(令和5年(2023年))



(時点) 令和5年(2023年)  
(出典) 厚生労働省「介護保険総合データベース」(令和6年8月10日時点データにて集計)  
※本指標は自治体向けのため取り扱いに注意してください。

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
新規要支援・要介護認定者の平均年齢	83.2	82.1	82.2	82.1	81.8	82.1	80.6	82.3	81.9	82.4	82.2	81.8
香川県	81.5	81.4	81.3	81.5	81.5	81.5	81.5	81.9	81.8	82.1	82.2	82.1
全国	81	80.7	80.6	80.6	80.7	80.8	80.9	81.4	81.4	81.5	81.7	81.7

	全国%	香川県%	土庄町% (人)
65-69歳	5.3	4.9	6.1 (15)
70-74歳	11.4	10.5	15.0 (37)
75-79歳	18.8	18.9	18.3 (45)
80-84歳	27.1	25.9	21.5 (53)
85-89歳	24.0	25.1	20.7 (51)
90歳以上	13.4	14.8	18.3 (45)



新規要介護(要支援)認定者の身体状況等は? ニーズは、サービスありき?

町内でも、地域差がある?

# 課題解決に向けて(データから地域の現状を共有)

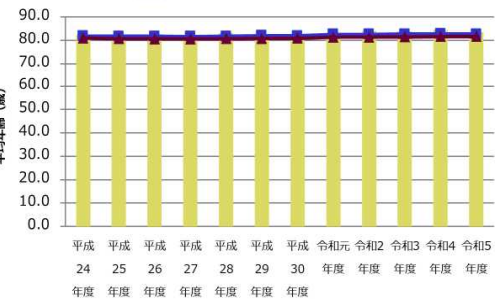


## 中芸広域連合

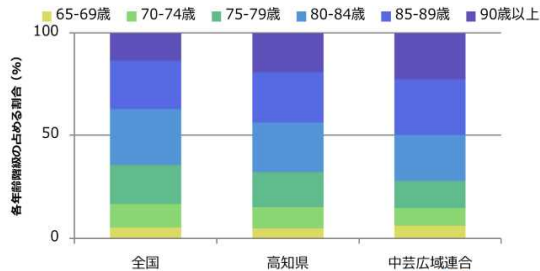
### 中芸広域連合の現状(見える化システムより)

新規要支援・要介護認定者の平均年齢(中芸広域連合)

新規要支援・要介護認定者の平均年齢



新規要支援・要介護認定者の年齢階級別分布(令和5年(2023年))



(時点) 令和5年(2023年)

(出典) 厚生労働省「介護保険総合データベース」(令和6年8月10日時点データにて集計) ※本指標は自治体向けのため取り扱いに注意してください。

申請者の傾向は?

	全国 %	高知県 %	中芸広域連合 % (人)
65-69歳	5.3	4.9	6.1 (12)
70-74歳	11.4	10.2	8.6 (17)
75-79歳	18.8	17.0	13.2 (26)
80-84歳	27.1	24.1	22.3 (44)
85-89歳	24.0	24.8	27.4 (54)
90歳以上	13.4	19.0	22.3 (44)

24

### 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査からみた地域の現状と課題

#### 地域活動への参加状況

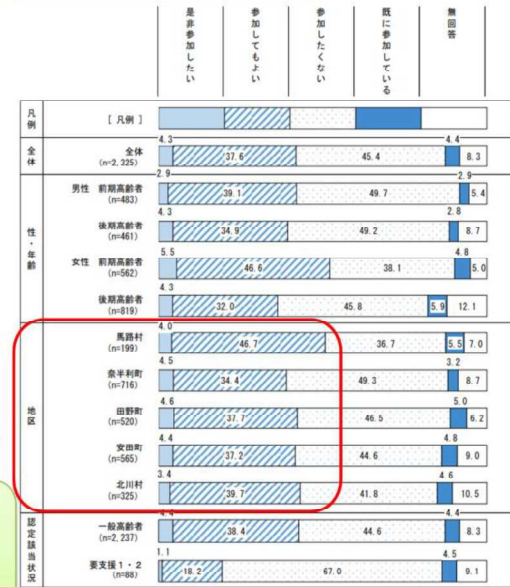
活動内容	母数 (n)	会・グループへの参加頻度(全体)						参加して回以上いる人*	
		週4回以上	週3回	週2回	週1回	月に1回	年に1回		
1 ボランティアのグループ	2,325	0.3	1.2	1.1	3.2	7.4	59.4	27.4	2.8
2 スポーツ関係のグループやクラブ	2,325	0.6	2.1	2.4	2.1	1.7	63.2	27.9	5.1
3 趣味関係のグループ	2,325	0.7	1.8	2.9	4.3	4.9	58.2	27.2	5.4
4 学習・教養サークル	2,325	0.0	0.6	0.6	1.5	2.1	65.2	30.0	1.2
5 (いきいき百歳村などの) 介護予防のための通いの場	2,325	0.9	6.7	6.8	1.8	1.1	62.0	20.8	14.4
6 老人クラブへの参加頻度	2,325	0.3	0.4	0.8	1.2	5.9	64.0	27.3	1.5
7 町内会・自治会	2,325	0.3	0.2	0.3	1.8	18.8	51.4	27.2	0.8
8 収入のある仕事	2,325	13.7	4.6	1.2	2.4	4.9	46.9	26.2	19.5

地域のトータル社会参加率は?

“地域活動の参加者には重複があるのが普通”

- ・時系列に見て、増えている活動、減っている活動はあるかな?
- ・男女別、地域別、前後期高齢者別など地域の活動性を分析

#### 地域活動づくりへの参加意向



5か町村毎の違いは地域課題に繋がる?

新規要介護(要支援)認定者の身体状況等は? 個別のニーズは?

28

# 取り組みを進めるための工夫①

- 目線合わせの重要性への理解
- 資料（図）を活用して関係者間での作業（ワークショップ）を実施

めざす姿の実現をめざして  
地域課題の解決に向けてどう取り組むか



〇〇町の高齢者が（例）  
 ●健やかでいきいきと暮らせるまち  
 ●地域全体が支え合い、その人らしく安心して暮らせるまち  
 をめざして

重要度（優先度）・取組やすさを整理してみよう



## わがまちの地域の資源を書き出してみよう

地域の資源を地図に落とし込むマッピング以外に、高齢者の心身の状態像に応じたものがどんな形で地域に存在しているか、書き出してみる！

- ◆生涯学習的な趣味活動（個人）
- ◆高齢者サロン系
- ◆住民主体の通いの場
- ◆一般介護予防事業
- ◆介護予防・生活支援サービス
- ◆その他



## めざす姿

中芸地区の要支援者・虚弱高齢者が安心して生活できるよう  
支えあいの「わ」が広がるまちづくり

それぞれの役割や取り組むことを考えてみよう

地域みんな	社協・関係機関	包括	行政（役場）	保険者（広域連合）
住民みんなのできることは何か・・・ひとり人ができることもありそう	社協でできることは・・・他に関係機関（企業）等は・・・	包括でできること、包括でないといけないものは・・・	役場でできること、役場でないといけないもの、広域では・・・	
協働でできることもあるかも...				



# これからも皆で地域づくりを進めていくために

- \* みんなそれぞれ頑張っている。バラバラになっている力を合わせよう。
- \* まずは「めざす姿（ビジョン）」を描き、言語化して共有。
- \* 顔を合わせ、対話の「場」を持っていこう。
- \* 住民の声を大切に生かそう。思いを語り合うことの楽しさを知ろう。
- \* いろいろな「場」に出向き、声を聴き、ネットワークを築いていこう。
- \* 様々なデータや声を「見える化」し、目線合わせに活かそう。
- \* 個別事例のデータを共有することでの気づきから新たな取組みに繋がることもある。
- \* 制度や事業は、めざす姿を達成するための手段・道具として捉え、事業間の繋がり（連動性）をもって展開していこう。
- \* それぞれの機関の強みを生かし、連携していこう。
- \* 焦らず、一步步ステップアップを。
- \* 行き詰まった時は「これは何の為にやっているのか」を再確認してみよう。



四国厚生支局は  
自治体の皆様の  
地域づくりの推進を  
サポートします。

「地域づくり加速化事業」を  
是非ご活用ください。

